

掛川市図書館協議会議事録

会議名	令和2年度第2回図書館協議会			
場 所	掛川市立中央図書館 会議室B			
開催日時	令和2年9月30日(水) 午後1時30分から午後3時30分			
出席者	会 長	鴻野元希	館 長	赤堀賢司
	会長代理	福住久美子	副 館 長	後藤晶子
	委 員	鈴木由加里	主 幹	名倉宏昭
	委 員	岡田昇	中央図書係長	栗田和道
	委 員	戸塚ひろみ	大須賀図書係長	澤島由基乃
	委 員	田中克美		
	委 員	浅井稔子		
	委 員	荒木伊久美		

事前

主幹

次第の修正をお願いします。お送りした次第の6その他は5と訂正願います。本日ですが、松下委員さんと石川委員さんは所用のため欠席となります。よろしく願います。また、戸塚委員さんが少し遅れるとのことです。それでは、次第にそって始めさせていただきます。

鴻野会長よろしく願います。

1 開会

会長

昨今の状況として1回目は紙面のみとなりました。コロナウイルスにより図書館の利用の仕方や読書の仕方が変わりつつある、変わらなければならない状況にあります。最近は少しずつ回復して公共図書館としての役割を果たしていくようになりつつあります。こういった状況の中で見直していくことになっていきますし、読書活動についても、本来読書は個人的な活動のためそこまでの変化はありませんが、デジタル化やデジタルアーカイブの推進等があります。そういったことがこれからの公共図書館の使命と考えています。今回は皆さんに審議事項等ではなく報告事項等で御意見をいただきたいと思っておりますのでよろしく願います。いずれにしても短時間でとのことなので、もし御意見等が時間内に伝えられない時はそれぞれ担当の方へお伝えください。よろしく願います。

主幹

ありがとうございました。

続きまして図書館長の赤堀より御挨拶申し上げます。

2 館長あいさつ

館長

あらためましてこんにちは。日頃より図書館事業に御協力いただきありがとうございます。今、鴻野会長からもありましたが、コロナウイルスの関係で年始めから影響が出ていますが、最初は

どんなものか分からない。かなり慎重にということで臨時休館等も行いました。ただ、現在は感染症の内容もだいぶ分かってきましたので今後の臨時休館等はないと思われます。その一方で、長時間の使用は避けていただきたいということで、AV機器等の使用について御遠慮いただいております。他の講座等についても参加者数の絞り込みや時間の短縮等を行いながらもだいぶ戻ってきています。早くワクチンができればいいなと思います。

2点目は、鴻野会長からありましたが、デジタルアーカイブです。ポストコロナの時代の中で電子図書館、デジタルアーカイブの部分が重要であるということで厳しい財政状況ではありますが、予算要求はしっかりしていきます。本日は報告事項等ございますが、皆様の御意見を伺いたいと思いますのでよろしくお願いします。

主幹

それでは4の報告事項にうつらせていただきます。ここからの進行は、掛川市図書館条例施行規則第18条の規定によりまして、鴻野会長をお願いいたします。

4 報告事項

会長

ここからは、私が進行を務めさせていただきます。

(1)「令和2年度掛川市の図書館」について

会長

最初に(1)「令和2年度 掛川市の図書館」について(別添)営基本方針について説明をお願いします。

主幹

(1)「令和2年度 掛川市の図書館」について御説明させていただきます。それでは、冊子から、「令和元年度主要施策の概要」についてご説明します。最初に事業報告でございます。27ページから36ページの関係になります。事業として主なものは、「こども読書週間」や「図書館フェスティバル」、高校生が講師になる「夏休み体験講座」等の催し物、出前講座、音訳講習会や朗読会、夜の図書館など各種行事を市民と協働で開催し、読書活動の普及・啓発を図ったほか、移動図書館や家庭文庫を通じて図書館サービスの充実に努めました。

また、松本亀次郎と周恩来のろう人形の寄贈を平成30年度末に中国から受けたことから、大東図書館のサブネームを「松本亀次郎記念館」とするとともに、本年2月に「松本亀次郎記念事業」を開催し、鹿児島から大学の名誉教授を招き講演をいただきました。また、松本亀次郎顕彰団体、掛川工業高校及び図書館との3者連携により、大東図書館郷土ゆかりの部屋の映像システムをリニューアルし、報道でも取り上げていただきました。

続いて令和元年度図書館統計資料でございます。37ページをご覧ください。本年度末の資料総数は67万2千点余りに増加しました。38ページをご覧ください。年間の延べ貸出利用者数は約22万人、延べ貸出点数は約91万1千点、年間の入館者数は3館で約41万6千人、いずれの数値も前年度を下回りました。

貸出利用者数、貸出冊数は新型コロナウイルス対策に伴う臨時休館の影響を除外すれば増加傾向にありますが、入館者数は減少傾向にあります。「掛川市の図書館」に関する報告は以上です。

会長

続いて(2)をお願いします。

主幹

次に、(2)「令和2年度4月以降の関連事業・報道等について」でございます。資料1をご覧ください。1点修正ですが、No. 12は、7月9日から8月1日に修正願います。コロナ禍のなかで、4月から6月の初旬までは、あえて中止した事業も記載してあります。No. 1から37となります。各月の最初のもののみをご紹介します。No. 7は6月16日から6月21日まで文化協会主催で行われました。No. 10は6月30日からたなばたかざりはよみきかせ会

：ひまわり主催で行われました。No. 17は8月1日から8月16日に古本市が図書館主催で行われました。No. 27は9月1日から9月12日にジモトノジゴト展が図書館・建築士会主催で行われました。No. 37は10月17日から11月17日までを11月8日に修正願いますが、図書館フェスティバルが図書館主催で行われます。

以上が事業関係の報告となります。

会長

非常に大変な時期でしたが、このような形でイベントを開催したとのこと。入館者や利用者の数は減っていますが、できるかぎりのことは行ってきています。

では、次をお願いします。

主幹

次は(3)「令和2年度8月末までの利用状況について」でございます。

コロナ禍のなかで4月から6月中旬までは計画していた事業を中止していましたが、6月19日からは読書室を椅子は各机1つですが開放しました。中央図書館についてのみ傾向をご紹介しますがご覧のとおり4月5月に比べて6月からは全てに上向き状態ですが、入館者数とBMはまだまだ去年の同時期と比べると3分の2程度でございます。貸出利用者数と貸出冊数は、安定してきております。このことは3館について同様な傾向となっております。今後は、コロナ禍の状況から県内図書館の状況、市対策本部や教育委員会の方針により、施設の運営に努力して参りたいと思います。私からの説明は以上です。

会長

中々比較はできませんが、何か御意見ありますか。3館の傾向は比較的似ていると考えてよろしいですか。著しく落ち込むといったことはありませんでしたね。

主幹

先程申し上げたとおり、読書室については6月から3館同時に開放しました。そのため、傾向については3館似たものになると思われれます。

館長

1点補足です。他の館より特徴が出ているのが中央館については高校生等が勉強などで読書室を使用していましたので影響が大きいと思われれます。

会長

最初は1時間以上滞在しないということでした。高校生は一度出てまた利用するといった方法を使っていると聞きました。こういった状況ですが、他にいかがですか。コロナ禍における図書館利用はこういった状態でした。その中でいくつかあって、本の除菌として貸し出した本の除菌はどうしているのかということです。図書館によっては熱で除菌する機械があって、一度に10冊程度とのことで対応しているとのことでしたが、掛川の利用者の方からはどうでしたか。

館長

その点については、当初心配していました。図書館自体が接触による感染がないことや、本を媒介とした感染がないよさだということかたちの中で、紫外線や熱での除菌はありますが返却本に対して処理が間に合わないのがカウンターで消毒を行っている状況です。

会長

他にはいかがですか。

委員

前回の報告に提出しましたが、今回はコロナウイルス状況下でということが無理もなかったと思います。その一方で、色々な利用者の方からの声として図書館を使用した事による感染等はな

かったのですが、掛川市は休館したのが早かったです。静岡県内図書館で休館したのが最初は数館だったと思います。浜松はかなり開館していたので、浜松の方から掛川はそういう対応なんですねという声と神経質だねという声がありました。実際の現場としてはそんなことを言っている状況ではなかったと思います。今となってはとなりますが、他の方法がなかったか、行ってみて休館だったと知る、ネット環境にない方が苦勞したということの反面、図書館がないということが如何に大変なことかを理解できたことから、図書館の利用価値が見直されたという良い点もあってこれから市民も図書館に対してもっと関心をもとうという話が伝わってきました。他の開館したところが開館したが故に良くなかった、開館しなかったが故に良かったということも踏まえて精査していただけることが必要だと思います。コロナウイルスに限らず今後も同様の状況になった際の参考になればと思います。

館長

御意見ありがとうございます。確かに神経質になった部分はあります。国もそうですが、小中学校を臨時休校にするという中で教育委員会としても感染力が高いと想定して統一的な判断で休館しました。但し、時間の経過の中でそこまでの感染力ではないとなりました。他市の図書館も休館等を行いました。全員がコロナウイルスを怖がっていたと思います。その後の感染力の状況が把握される中で図書館に限らず市全体の施設を対策本部で決定して対応していきました。今回の件では市も勉強させていただきました。今回は新しいウイルスで対策等が見えない部分もありましたが、インフルエンザ等への対応にも役立つ部分はあると思いますので今後に生かしていきたいと考えています。

会長

公共施設一律で使用を自粛したので、図書館だけ特別に開くわけにもいきませんでしたからしょうがないとは思いますが。

他にはいかがですか。なければ次をお願いします。

事務局

ここからは資料3、4と関連がありますので、一括して御説明させていただきます。

1の第4次掛川市子ども読書活動推進計画(資料3)ですが、第3次計画が平成28年に策定されまして、これは5年ごとに見直すことになっており本年度が5年目になります。現在、3次計画の見直しと4次計画の策定を行っています。資料3ですが、右側に書いてあります9月24日(木)に子ども読書推進会議で説明を行いました。主な見直し点ですが、下にある表の通りの変更を行いました。それから、章立てを見直して各章の役割を明確にしました。3番目には計画の全体が分かりやすいように構成図を作成しました。これにより、理解をより深めていただくことを目的としています。表になっている主な見直し点ですが、4次計画では、計画の概要、計画の背景等々を明確にして計画の位置づけを明らかにしました。それから、基本的考え、基本目標を明らかにすることについては裏面で説明します。次に推進方法についてですが、学園化構想による読書活動推進ということでこれを分けて明確にしました。掛川市におきましては、総合計画の中でSDGS(持続可能な開発目標)を掲げています。それを元に新たに目標を確認させていただきました。基本目標は資料裏面に記載されています。この目標を実践するために第4次計画を策定いたしました。(3)公共施設における図書館機能については、3次構想までは全市図書館構想の考え方を背景として、地域生涯学習センターなどを分館として位置づけ、専門職員や地域ボランティアなどを配置して読み聞かせや図書の貸出を進めることとしていましたが、掛川市における公共施設の再配置方針により地域生涯学習センターはまちづくり協議会に管理移管しまして自主的に管理運営するようになっていきます。各センターの運営委員の方々により特色ある活動を行うようになっていきます。そのため、図書館では各センターに定期配本や各施設の図書コーナーの充実など、ソフト的な面の記述を中心としています。(4)は連携による読書活動の推進については、掛川市では協働と連携を進めています。今までは図書課や学校を中心とした連携を考えていましたが、これからは図書館や学校だけでなく地域や各種施設に広げて活動推進について連携していくことを記述しています。後は全体のことで、資料内の漢数字と算用数字が混在していますので基本的に算用数字に統一させていただきます。また、凡例、用語解説を巻末に

記載して複数の頁で出てくる語句がある場合、2箇所目の頁を直接読んだ場合には、前に記述された頁を探さなければなりません。巻末に50音順で記載することでそうしたことを防止できるようにします。

先程も御挨拶のなかで色々ありましたが、新型コロナウイルスにより市の財政も非常に厳しくなる中で新しい事業を行うことが難しくなっております。第4次計画では努力目標としてソフト面の充実を目指して推進していくことを計画しています。以上です。

会長

ありがとうございます。ほんわかプランの4次計画案となります。3次計画にはない新しい点が盛り込まれています。例えば、学園化構想に基づくものであるとか、振興計画が新しくなったのでそれに合わせた計画になっているとかがあります。また、最近の掛川でも取り組んでいます。流行と言えるSDGSを盛り込んでいたりします。図書館の持続的発展とは何かといったことになると思います。皆さんいかがでしょうか。

館長

若干補足させていただきます。前回会議を開かせていただき第3章目標の部分についてはこれでいだろう、第4章も特に大きな点はありませんでした。第5章の連携と協働の重要性ということで別立てにしました。そういった中で学園化構想を進めている関係から読書活動の推進としていますが、学園ごとよりも広い部分としてタイトルと内容はもう少し検討が必要となりましたので事務局で検討中です。

会長

言葉としてはどうしても抽象的にならざるを得ない部分もあります。書くのは簡単ですが、実行となると色々課題があります。学園化構想の中で図書館の役割というと中々難しいと思います。そもそも学園化構想が市民に定着化しているかという点もあります。学校関係者は分かるかもしれませんが具体的な読書活動にどう関係するのか、地域の活動にどう結びつくのかを考えるのは難しいと思います。一応この形で4次計画を進めていくとのこと。他に何かありますか。

では、次をお願いします。

係長

資料4の図書館フェスティバルについて御説明させていただきます。図書館フェスティバルは読書週間に合わせまして、今年は10月27日(火)から11月9日(月)ですが、この期間に合わせて3館合同で様々なイベントを行っていました。しかし、新型コロナウイルス感染症防止対策から3密を避けるため見直しを行いました。今回は、開催期間を前倒しして10月17日(土)から11月8日(日)の期間で来館者の分散を図りました。内容については、以前は講演会等の人が集まるイベントを開催していましたが、今年度は展示を中心に変更しました。それぞれの図書館を拠点に活動されている図書館活動グループさんの活動紹介やお薦め本のリクエスト、それから資料、作品の展示を行いました。各館の参加しているグループさんが書いてありますが、このような形で今年度のフェスティバルを開催する予定です。以上です。

会長

黄色い橙のフェスティバルのちらしですが、期間が少し長くなったということですが、関係の方がいらっしゃるとは思いますけれど、なかなかフェスティバルと言っても展示が中心ということで、まあ縮小せざるを得ないということになります。

これについては何かありますか？

委員

一つ確認ですが、大須賀図書館の郷土資料展は10月31日(土)から11月1日(日)の2日間です。よろしいですか。

係長

その通りです。土日の2日間で行います。

委員

了解しました。

会長

他にどうですか、このフェスティバルについては。利用者は戻ってきているとは思いますが、人を集めて色々するのは、未だためらわれます。昨日も袋井地区での感染者の報告がありましたし、掛川でも先週はありました。それを全くぬきにしてフェスティバルをやるのは難しいですね。苦肉の策でこういう形にしています。

係長

資料の5番をご覧ください。冬の夜の図書館を12月18日(金)に午後6時から8時まで通常の開館時間を延長して開催する予定です。今までの夜の図書館ではミニコンサートとかよみきかせ等のイベントを行っておりましたけれど、そのような人が集まることは行わず、5時を過ぎたら電灯を落としましてBGMを流して、静かな中で雰囲気の中でゆっくり読書を楽しんでいただくという企画としました。通常の開館ですので本の貸出や返却もできます。ちょっと落ち着いた雰囲気での夜の図書館を楽しんでいただく企画になっております。よろしくお祈りします。

会長

ということで図書館の開放を夜8時まで延長していただけるということになります。これは中央館だけですね。

事務局

今回の夜の図書館は中央館のみです。オレンジ色のチラシの中に大須賀間でののが書いてあります。そちらもご覧ください。

会長

ということですが、報告事項等これまでのところで聞き逃したり何か感想やご意見がありますか。

委員

掛川市の図書館の中で出前講座については、大東館がとても少なく大須賀館や中央館が沢山あるように感じたのですがどうですか。旧大東町民として大東は需要が少ないのかと思わず少し心配になりました。

副館長

大東図書館の後藤です。申し訳ありませんが、私が4月から赴任しておりますので去年までの実績をはっきり把握できていない点があります。去年は配属になった職員が新任だったので大東図書館に依頼があっても大須賀館、中央館の職員にお願いをしていたと思われまます。今年からは私が戻りましたので大東の職員で対応できますが、依頼が少なかったのか、ガクンと減ったのかどうかは分かりません。たぶんこちらから応援をお願いして大須賀館、中央館にお願いして対応したものが結構あってその分が大東館で減って中央館と大須賀館が増えていることに繋がっていると思われまます。

委員

大東図書館と学校の連携が少し落ち込んでいるのではないかと少し心配になりました。

副館長

去年は分かりませんが、今年は7月に大浜中からブックトークの依頼があり行かせていただきました。一度途切れてから再度依頼があることはないと思われまますので、連携が少ないということはないと思われまます。また、学校図書館支援室と連携を取っていますので大丈夫かと思われまます。

ご心配いただきありがとうございます。

館長

図書館の司書と学校図書館支援室に配属されている司書は定期的に連携を取っており、情報共有もしていますので疎遠になっているとか、そういったことは無いと思っております。

委員

司書さんが頑張っているのは重々わかっているのですが、学校がどうかと心配になりました。

会長

それでよろしいですか。そんなに大きな数の変化はないということです。

委員

先程館長さんからコロナの対応について今後は考えていきたいというお話でしたので大丈夫かなと思いますが、本当にコロナ禍の今こそ自分を含め図書館で本を借りたいと思いました。いつもより余計に本を借りたいと思ったんですね。コロナになってどこにも出かけられなくなったので、図書館がすごく特別必要とされていた期間だったのではないかと思います。ネットでも電話予約でも構わないのでとにかく借りたかった。自分も借りたのですが、全くの閉館の場合、開館していない、借りられないとなるとしょうがないからビデオを借りに行こうかとなると思います。ですからネットでも電話でもいいので今後まだ酷くなるかもしれないかもしれませんが、是非とも借りられるようにしていただきたいと思います。

会長

貸出体制をコロナ禍であっても維持できるようにして欲しいということですね。

館長

コロナの関係につきましては、大分素性が見えたときました。市内でコロナウイルスの感染者が出たとしても、これが図書館関係者だったら臨時休館はやむを得ないと思いますが、そうでない限りパンデミック的に感染が拡大しない限り閉館は考えられないと思います。

閉館当時は、県内でも本当に完全休館に近い形をとった図書館が多くありました。それだけ、どこの市も図書館だけ開けるのということではなく、市の公共施設全般的にそのような体制をとるという方針でした。どこの市も対策本部を立てていますからその中での決定と考えております。

会長

貸出に関してはできるものですからやればいかなと思います。ただし、取りに行かなくてはいけなくて取りに行かなくても配達ができるとさらにいいと思いますが、そこまでは無理があるかなと。

館長

まあそういった効果のことも踏まえまして、次年度の予算要求で財政状況が悪くなっている中で絶対通るとは言い切れませんが、このような社会状況で電子図書館を進めていくことがあります。電子書籍は取りにいく必要もないですし、何よりも図書館から離れている方とか、高齢者の方には拡大や読み上げの機能、視力に障害のある方も含めて全ての人に利用しやすい図書館に繋がるのでそこを基本にして予算要求をしていくつもりです。

会長

先ほど学園化構想の中で、いわゆる図書館以外の公共施設に月ごとにまとめて100冊や200冊の貸出をしている。そういうことだと思いますが学園化構想ということになれば、学習センターに大きな箱を置いて200冊位ずつ毎年ぐるぐる回すとかそういう予定はないのですか。私に関係している発達支援センターの「のびる一む」という所がありますが、図書館から毎月発達支援関係の本を30冊位定期的に持って来てくれて利用者さんがその本を見るという風にうまく本が利用されているものですから、もしそれが学習センター毎に行えるのであればいいと思います。その時には学習センターに書棚がなければいけないし、運ぶことも考えなければいけない。それだけやっても私共が関係している西山口地区の学習センターは30年前の古い手垢がついた本しか置いていません。数も50～60冊。そこに新しい本があれば違った意味合いが出てくると思いま

す。その辺も考えていただけたら有難いです。

館長

ありがとうございます。学園化の中では学校だけではなく「子ども育成支援協議会」という学校を地域の力で支えていく、各中学校区にはコーディネーターの方がいらっしゃいます。学校の細かなことや講座とか色んなことで学校の手助けになればということで、学校の要望によって動いてくださっています。これまでは、そこと図書館がうまく結びついていませんでした。子どもの育成の中では読書活動が非常に大きな部分になりますので「子ども育成支援協議会」と情報交流をしながら読書の大切さをPRしていきます。そうした中で地域の子どもへの読書の基盤を作っていきたいと考えています。市民ニーズのなかでもっと生涯学習センターに本を置いてほしいといったニーズが出てくれば図書館のほうも動きやすくなります。もちろんニーズのある中で図書館は対応していくのが役目です。下地づくりをするためにも「子ども育成支援協議会」などと交流をしていきます。こちらからも情報を発信していきたいと考えています。

会長

ありがとうございます。他はよろしいですか。では、次のその他のお知らせの部分をお願いします。

事務局

次第ついてですが、（１）静岡県図書館大会と（２）県内の視察研修は中止でございます。（３）第４回協議会は３月に予定しておりますので日時が決まりしだい皆様にご連絡したいと思います。（４）第１４回かけがわ教育の日の関連ですが、令和３年１月２３日（土）からということで、「未来の教育について考えよう新しい生活様式を踏まえて今だからできること、見えること」をテーマに実施要項を作成中であります。ご連絡ができしだい、何らかの報告をさせていただきたいと思います。私からは以上です。

館長

私から「かけがわ教育の日」について若干補足させていただきます。３密を避けるということで現段階の企画では実際に集まるのではなくインターネット配信を予定しています。集まらないということで時間配分がだいぶ変わる部分もあるので新しい企画等も取り入れていきます。具体的にはこういった状況での先生の体験談を募集するとのことでした。

会長

全体的にはいかがでしょうか。ここで今日聞いておきたいことはありますか。

委員

私は郷土史関連で発言させていただきたいと思います。昨年仕事を退職して今年から郷土史関係に没頭できる環境になりました。そしたらコロナ禍の状況になりました。逆にこのコロナだけに集中してできたこともありまして、図書館をかなり利用させていただきました。但し、我々が欲しい情報は大体持出禁止、館外持出禁止の本が多いものですからそれが結構大変でそれをいちいちコピーするのは大変なのでパソコンを持ち込んで打ち込むことをやりました。結局はコピーしてやるよりは家でやるほうが楽だと思いました。そういった時に図書館が開けばPDFで記載された本やデータを取り出すことができれば図書館に行かなくてもすむと思います。図書館の入館者数を増やすことにはなりません、インターネットからデータを取り出すといったシステムになるともっとはかどるかなと感じました。非常に多くの資料の中で活字になっていないものや活字であってもところどころ違っている歴史的資料を修正することができたので、そういう意味では充実した期間を過ごさせていただいております。図書館では、たびたび大須賀図書館、浅羽を利用し、２、３日前には浜松市の図書館も利用させていただきました。この期間は情報収集に助かりましたし、改めて図書館の大切さを感じました。充実した資料を今後も図書館に沢山揃えていただけたらと感じております。掛川、大東、大須賀と図書館がそれぞれいいのですが、もっとも郷土資料を充実して見やすくコーディネートしていただくとより分かりやすくいいなと感じました。

委員

色々本屋さんが潰れたりしたりそんな話題が最近ニュースで流れている中で、コロナ禍で本へ

のニーズがとても高くなっていると思います。ですから是非図書館がこんなこともやっていると思える身近な図書館、館の充実であったり、サービスの充実であったり、そんなことを願っています。それから「ほんわかプラン」も1次から4次まで見直しを図られながら進められていると思うのですが、予算については一層厳しいこともありますので数値目標をあまり無理しないで、これ出来たかなというような積み重ねもお互いに満足感があるかもというような気持ちを持ちました。いろいろありがとうございます。

委員

先ほど戸塚委員さんが仰ったことを私も同じこととして感じました。コロナで図書館が閉まった時に一番本が必要だなと感じました。インターネットの予約がうまくできないお年寄りが図書館を利用したくても利用できなかったのではないかと感じます。インターネットでの予約の仕方を簡単にまとめたような紙があれば、それをお家に持って帰ってパソコンとにらめっこしながらなんとか予約ができたらと思います。お年寄りで図書館に行くのは怖いなという方も今後使えると思いますし、電子書籍についてもたぶん使い方は私もよく分からないし、お年のかたも本当に分からないのではないかと感じます。ですので、何か手助けになることをしていただけましたら電子書籍もインターネットもより使いやすくなるのではないかと感じました。

会長

大体皆さん一言言われました。由加里さんまとめてください。

鈴木委員

私、自分たちがやっているグループが「読み聞かせ会ひまわり」というのですが、6月は図書館を貸していただけなくて、報徳社の庭でやりました。毎週1回30分くらいですけど。その頃には貸出ができていたので紙芝居を借りて外で読み聞かせを行いました。3、4、5月は活動ができませんでしたが、6月から少しずつ始めました。お楽しみ会というのも報徳社の庭をお借りして予定しましたが、少し前に浜松市でクラスターが発生して3日前に中止にしました。そういった状況では人を集めている場合ではないと一般の方は思うのではないかと考え中止しました。図書館の休館中、開館直後はそういった活動を行いました。現在は会議室を貸してもらい読み聞かせを行っています。ありがとうございます。ネット予約は増えたのでしょうか。コロナの関係でネットや電話でしか予約ができない時期があったと思います。今までの利用者がネット予約に慣れてきたのかもしれないかもしれませんが、増えてはいるのでしょうか。

館長

統計を行っていないため、感覚的な意見になりますが職員に確認するとネット予約は増えていくということです。そういった感覚があります。ネット予約に慣れると、夜間や電話中等で電話が繋がらない時間帯でもネットならば時間を選びませんから便利だということが理解されてきたのかネット予約が増えていると考えます。

鈴木委員

ネット予約が増えるということは、職員さんが全ての本を探しているかだと思います。人手が足りないと思いますがどうでしょうか。

館長

ありがとうございます。そこを御理解いただくと大変助かります。臨時休館で予約だけにした時に業務が楽になるとののではと言われました。しかし、予約が増えると本を探す量が増えます。計算してみると全くそうではありませんでした。

委員

この場でお願いを言っただけとはいえないかもしれませんが、地元の作家さんを応援するような取り組みを行っていただきたいと思います。10月に掛川在住の方が作家デビューされました。大東にも作家さんがいます。是非、在住の作家さんを応援していただきたいと思います。

館長

ありがとうございます。図書館から情報提供をしていきます。また、皆さんから情報提供をい

ただきながら努めていきたいと思ひます。

会長

では、時間となりましたので事務局にお返しします。言い足りない部分は直接事務局へお願い
します。それば、次回へ反映していくことになると思ひます。

主幹

会長ありがとうございました。

以上をもちまして、第2回図書館協議会を終了します。皆さんありがとうございました。

終了